

東北地方 1か月予報

(4月1日から4月30日までの天候見通し)

平成18年3月31日
仙台管区気象台発表

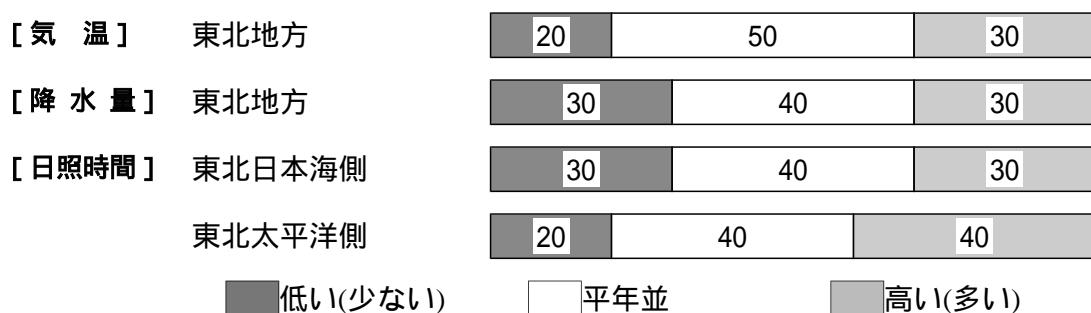
<予想される向こう1か月の天候>

この期間、気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は一時的に冬型の気圧配置となり寒気が南下するでしょう。東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が多い見込みです。なお、東北地方の山沿いでは平年に比べて積雪量が多くなっていますので、融雪災害やなだれ等に注意してください。また、おそれ霜の降りる恐れがあるでしょう。

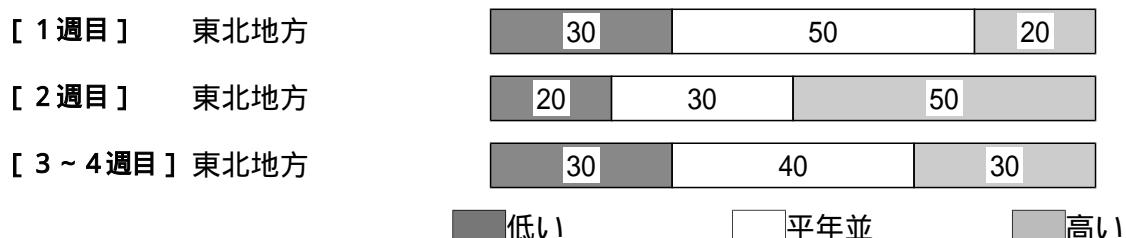
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並、降水量は東北地方で平年並、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は高い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

- 1か月 : 4月 1日(土) ~ 4月30日(日)
1週目 : 4月 1日(土) ~ 4月 7日(金)
2週目 : 4月 8日(土) ~ 4月 14日(金)
3~4週目 : 4月 15日(土) ~ 4月 28日(金)

<次回発表予定等>

- 1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は4月7日
3か月予報: 4月25日(火) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3～4週目
大船渡	9.0	138.0	176.0	6.8	8.1	10.1
新庄	8.1	98.3	150.2	5.2	7.0	9.7
若松	9.9	63.4	175.8	7.0	8.8	11.3
深浦	8.3	93.3	174.7	6.2	7.6	9.4
青森	7.9	60.7	187.3	5.6	7.1	9.1
むつ	7.2	81.1	193.8	5.0	6.3	8.3
八戸	8.3	58.9	194.3	6.0	7.4	9.4
秋田	9.2	117.6	175.0	6.9	8.4	10.4
盛岡	8.4	93.8	175.1	5.7	7.4	9.7
宮古	8.7	96.3	192.3	6.5	7.8	9.8
酒田	9.8	105.5	173.1	7.6	9.0	11.0
山形	9.8	68.1	180.3	7.0	8.8	11.2
仙台	10.1	98.1	190.9	7.8	9.2	11.3
石巻	9.2	91.8	192.6	7.1	8.3	10.3
福島	11.3	79.5	188.6	8.6	10.2	12.6
白河	9.8	100.5	184.2	7.3	8.8	11.1
小名浜	11.1	128.3	186.1	9.1	10.3	12.1

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3～+0.5	89～112	94～103
東北日本海側	-0.5～+0.6	90～110	92～106
東北太平洋側	-0.5～+0.5	84～113	95～102

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.5～+0.6	-0.6～+0.7	-0.4～+0.4
東北日本海側	-0.6～+0.7	-0.7～+0.7	-0.4～+0.4
東北太平洋側	-0.5～+0.7	-0.6～+0.9	-0.4～+0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年3月31日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(4月1日~4月30日) :

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は一時的に冬型の気圧配置となり寒気が南下するでしょう。東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が多い見込みです。なお、東北地方の山沿いでは平年に比べて積雪量が多くなっていますので、融雪災害やなだれ等に注意してください。また、おそ霜の降りる恐れがあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(4月1日~4月7日) :

東北日本海側は、期間の中頃までは、気圧の谷や寒気の影響で雨や雪の日が多いでしょう。期間の終わりには、晴れの日がある見込みです。東北太平洋側は、晴れの日が多いですが、期間のはじめ、気圧の谷の影響で雨の降る日がある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(4月8日~4月14日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側は平年と同様に晴れの日が多く、東北太平洋側は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(4月15日~4月28日) :

天気は数日の周期で変化するでしょう。気圧の谷の通過後は一時寒気が南下するでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

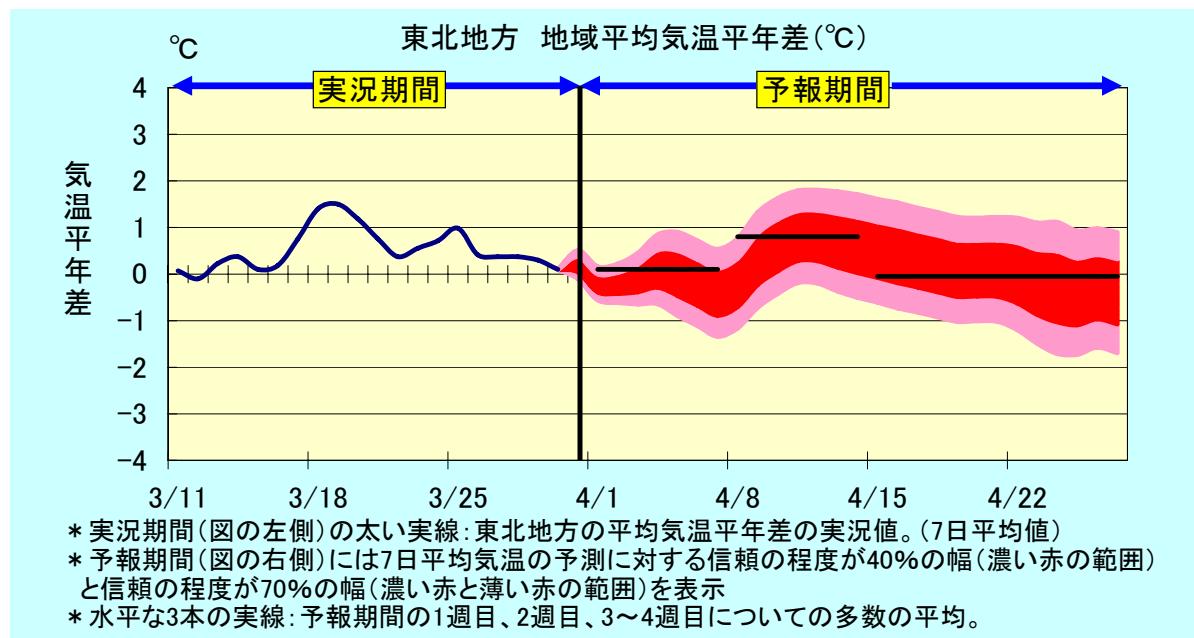
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	15.6日	3.9日	3.6日	8.1日
東北太平洋側	17.2日	4.5日	4.1日	8.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目は「高い」、3~4週目「平年並」と予測している。予報は、数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

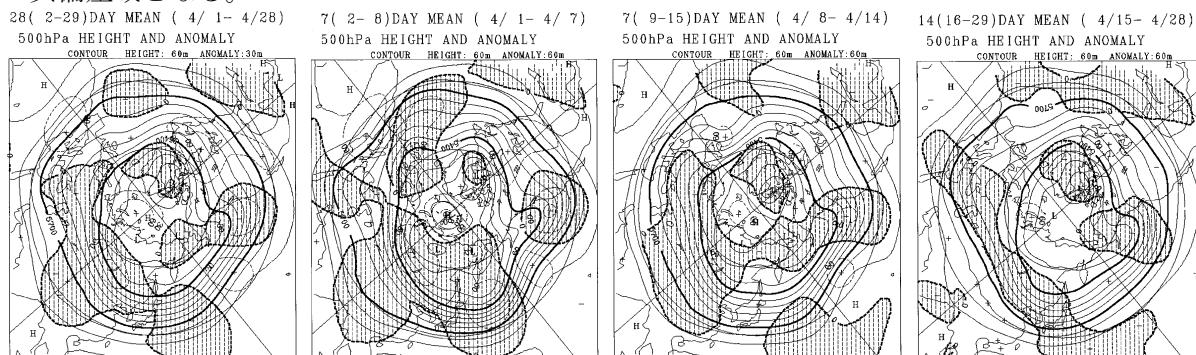


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近が正偏差（暖気に対応）、中緯度帯は日本の東海上とバイカル湖付近を中心を持つ負偏差（寒気に対応）に覆われる。日本付近は北海道が負偏差となる。

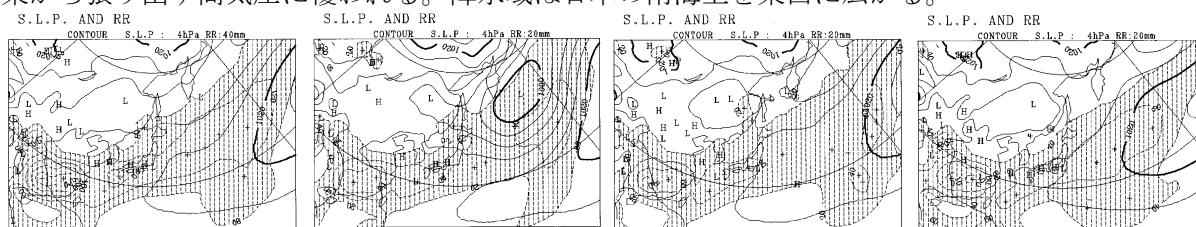
1週目は、日本付近は中国、九州地方を除き負偏差に覆われる。2週目は、モンゴル以西の大陸と日本の東海上沖は負偏差だが、日本を含む極東域は正偏差。3~4週目は極付近と中国大陸、日付変更線付近の北太平洋は正偏差だが、日本付近はバイカル湖から日本の南海上まで連なる帶状の負偏差域となる。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本の北は低圧部となるが、日本付近は等圧線の間隔が緩やかで、低気圧と高気圧が交互に通過する見込み。日本の南海上を中心に降水域がかかる。

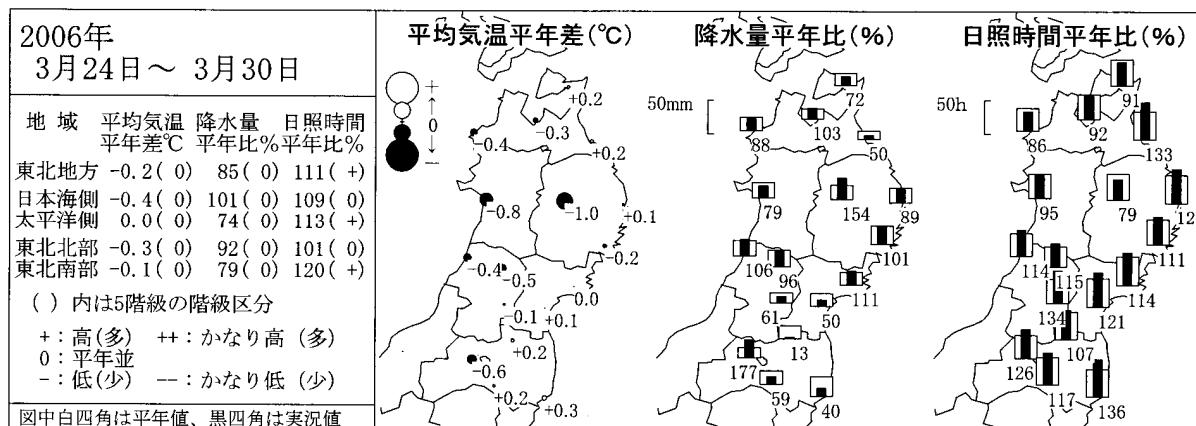
1週目は、カムチャツカ半島の東海上の低圧部が明瞭。降水域は四国、九州以西中心で東北地方は弱い。2週目は、太平洋の高気圧が日本の東まで広がるが、中国東北区は低圧部となる。日本付近の等圧線の間隔は広く、低気圧と高気圧が交互に通過する見込み。3~4週目は、東日本は東から張り出す高気圧に覆われる。降水域は日本の南海上を東西に広がる。



4. 最近1週間（3月24日～3月30日）の天候の経過

この期間、高気圧と低気圧や前線が短い周期で通過し、天気は数日の周期で変化した。24日には、三陸沖に進んだ低気圧と北海道の西に停滞した低気圧の影響で東北北部では雨や雪のところがあった。25日は高気圧の通過により晴れたが、26日は日本海北部の低気圧に伴う前線の通過により太平洋側沿岸部を除き曇りや雨となった。27~28日に再び高気圧が通過し晴れたが、その後日本海低気圧が発達しながら東北地方に接近・通過し、通過後は冬型の気圧配置となり、29~30日には雨や雪となり強風を伴ったため、交通機関などに被害が出た。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）